

2025 年度（令和 7 年度）

事業報告書



公益財団法人キープ協会

目次

2025 年度 事業計画の方針・重点項目	3
.....	
公益Ⅰ. 環境保全及び環境教育の研究と教育・普及に関する事業	4
1. 環境教育	
2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」 指定管理業務	
3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務への貢献	
4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
5. 環境研究所	
6. 地域における環境教育事業	
7. 専門スタッフの育成	
公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業	7
1. 生産農場	
2. 教育農場	
3. 食育	
公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を 提供する事業	8
1. 清泉寮	
2. 自然学校・キャンプ場	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業	11
1. 国際交流事業	
2. 地域連携事業	
公益Ⅴ. 幼児の育成と子育てに関する事業	12
1. 地域のニーズに合わせた子育て支援	
2. 保育の質の向上	
3. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
4. 自然のリズムを大切にしたい食事の推進	
5. 園舎内及び周辺環境整備	
6. 研修実施・視察受け入れ等を通じた人材育成	
7. 他事業との連携	
8. 保護者や地域の方々との協働	
9. 卒園児のバックアップ	
.....	

収益Ⅰ. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等	13
1. 収支動向	
2. 重点業務	
3. 通常業務	
4. 出張販売	
収益Ⅱ. 宿泊設備を使ったホテル事業	15
1. 清泉寮	
.....	
本部（管理部門）	16
1. 総務	
2. 経理	
3. 施設	
4. 企画	
5. 営業	
.....	

2025 年度 事業計画の方針・重点項目

キープ協会の従来からの取組みを改めて SDGs の視点で整理すると、まさに SDGs そのものである。全事業を支える自然環境を守ることで清里地域の観光事業や生活文化を持続可能なものにし、各事業が本業を改善し成長させることで、地域や世界の課題に向け持続可能な社会の実現へ貢献する。

■公益事業重点項目

1. 教育機能の強化：

教育研修、環境教育、保育等を通じ、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出する。

2. 農場機能の強化：

牧草地への計画的な堆肥や尿等の散布による循環型酪農を推進する。

動物福祉に則った飼養管理、システム・機器の活用による高水準での繁殖管理に取り組む。

後継者の育成および学習の場として、実習生や研修生の受入れを行う。

3. 保育事業の強化

幼児の育成と子育てに関する事業活動をさらに活性化する諸施策を実施する。

4. 地域社会への貢献：

研修交流、農場、保育園等の各事業及び地域との連携を通じて地域経済・文化・社会の持続可能かつ健全な発展に貢献する。

5. 人材育成支援：

環境教育、保育園、研修交流等の各事業を支えるスタッフの育成及び専門的なスキルアップを目指す人材への支援を強化する。

【収益事業重点項目】

公益財団法人としての活動を支える収益事業体制の見直し・強化
安定的にキャッシュフローを確保できる経営基盤の確立

1. トップライン増強：

客室稼働率の向上、新商品開発、地域事業者との連携強化に取り組む。

2. 利益率の改善：

付加価値向上やコスト転嫁による販売価格引上げに取り組む。適正な経費の支出およびキャッシュフロー重視の収益管理を徹底する。

3. 行動計画への取組み強化：

策定した行動計画の着実な実行と正確な振り返りにより PDCA サイクルの定着化を図る。収益向上策の中心として取り組んでいく。

4. 各部署での業務運営体制見直し：

業務フローの見直し、データの整備・活用、人員の適正配置、他部署との連携強化に取り組む。

5. 人材育成強化：

外部人材の登用、職員教育、研修の実施により、各スタッフのスキルアップを図るとともに、人事制度の見直し等、職員が働きやすい環境作りに取り組む。

公益 I. 環境保全及び環境教育の研究と教育・普及に関する事業

1. 環境教育

環境教育研究と地域の自然情報・ヤマネの総合的な研究蓄積を基盤に、市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働による環境教育事業及び環境保全事業を、清里及びその周辺地域・国内各地・国外で広く展開し、持続可能な社会実現に取り組んだ。

(1) キープ・フォレスターズ・スクール

① 役割

ESD・総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供及び研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

② 重点目標

- ・新規ニーズの開拓
- ・全国各地でのアウトリーチ活動の充実
- ・森の多面的活用（ワーケーション、リトリート、森のようちえん等）
- ・自然×文化・歴史・暮らしのインタープリテーション

③ 主催事業

「実験」「協働」をキーワードにした魅力的なプログラムの開発・実施

(2025 年度主催事業の実績)

	2025 年度	2024 年度	増減
宿泊型環境教育プログラム	77 人／5 回	79 人／7 回	▲2 人／▲2 回
日帰り型環境教育プログラム	340 人／29 回	217 人／29 回	+123 人／なし

④ 受託事業

学校・企業・省庁・自治体等の受託事業を実施

(2025 年度受託事業の実績)

区分	対象	主な利用団体
清里でのプログラム	学校関係	山梨県内外小中学校・保育園、北杜市立甲陵中学校
	行政関係	北杜市、JICA
	一般	日本環境教育フォーラム、やまなし環境財団、
出張プログラム	行政関係	環境省、群馬県、山梨県、北杜市、青少年教育振興機構
	一般	サントリー、電源開発、NTTファシリティーズ他
合計	273 事業	

⑤ 指導教育・人材育成

- ・職員のスキルアップのための研修実施
- ・1名の長期（11ヶ月）インターン生と、8名の短期インターン生（帝京科学大学、都留文科大学、東京環境工科専門学校）を受入れ
- ・JICA 日系研修にて約3週間4名の研修員を受入れ

(2) 清泉寮やまねミュージアム

① 役割

ヤマネの総合的な研究への協力・情報の蓄積、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、森林生物多様性保全の提案への協力、環境教育・環境保全策の普及啓発

② 重点目標

これまでの研究成果の教育への展開、プログラム化と地域への普及。研究を活かした教育事業の館内展示等で発信と情報蓄積。論文発表・学会発表・シンポジウムへの協力アート等異なる視点からのヤマネの暮らす森の環境保全への試み。

③ 事業計画

国内外での総合的なヤマネ研究・保護及び生物多様性研究の推進への協力、アニマルパスウェイの国内外の開発と普及への協力、国内外の研究者との連携・情報交換・共同研究、

研究成果を活かした展示や環境教育プログラムの開発・実施、「やまねミュージアム」の管理運営、ヤマネ関連グッズの開発・販売、老朽化する建物の維持・管理・補修、ボランティアとの連携、全国各地での出張展示等

- ・「清泉寮やまねミュージアム」の管理運営
展示内容の更新、ビジターセンター関係者・中国/ブラジル自然体験指導者等の研修にて活用、やまね生き物研究所主催研修事業への協力
- ・ヤマネの研究成果を活かした環境教育
北杜市立甲陵中学校「八ヶ岳南麓学」への協力、夏休みの自由研究応援等

(開館日数・入館者数等の実績)

	2025 年度	2024 年度	増減
年間開館日数	165 日	165 日	±0 日
入館者数	9,128 人	9,426 人	▲298 人
1 日平均入館者数	55.3 人	57.1 人	▲1.8 人
利用団体数	20 団体	20 団体	±0 団体
団体利用者数	1,559 人	1,919 人	▲360 人

2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」指定管理業務

(1) 役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良好な環境の保全と継承に貢献した。

(2) 2025 年度のテーマ＝30 年（開館 30 周年に当たる）

(3) 事業実績

主催事業の実施（利用者への自然解説業務、自然体験プログラム、セルフ型プログラム、講演会・企画展等の各種企画事業、館内展示、映像上映等）、施設及び設備の維持管理、利用促進業務、ボランティアとの協働、県内類似施設等との交流活動、自然調査、自主事業（環境教育関連書籍やグッズの販売）の実施

(開館日数・入館者数等の実績)

	2025 年度	2024 年度	増減
年間開館日	320 日	320 日	±0 日
入館者数	85,682 人	96,788 人	▲11,106 人
開館（1994.11）以来の 総入館者数	2,734,369 人		
1 日平均入館者数	268 人	302 人	▲34 人
利用団体数	249 団体	235 団体	+14 団体
団体利用者数	11,695 人	12,463 人	▲768 人
プログラム回数	483 回	481 回	+2 回
プログラム参加者数	26,272 人	25,159 人	+1,113 人

3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務への貢献

各種環境教育資料の提供や山梨県での那須平成の森の広報活動を行った。

4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、次の事業を行った。

(1) 地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動

オンラインでの普及啓発、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、パンフレット・教材の作成及び配布、出張講座等

(2) 地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う民間団体の活動支援

やまなし環境教育ミーティングの共催、研修会 2 回実施、ホームページ・通信等での広報協力、脱炭素普及促進事業支援業務等

- (3) 日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言 630 件対応（推進員・行政関係者・県民等）、山梨県委託事業：脱炭素普及促進事業支援業務の実施
- (4) 日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析への協力
山梨県環境家計簿への協力
- (5) 定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供
問合せ時等随時の情報提供

5. 環境研究所

環境教育事業部の機能の 1 つとして、事業部横断的に研究活動を行った。

(1) 環境保全研究

主に清泉寮やまねミュージアムが担った（詳細は 4 ページ 1-(2) 参照）。

(2) 環境教育研究

カード「ゼロカーボンアクション 30」を作成、山梨県内を中心に脱炭素関係機関等での発信を行った。また、環境教育学会・都留環境教育マルシェ等で口頭発表を行った。

6. 地域における環境教育事業

地域有志と協働し、「森の楽童」を実施した。また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。具体的にはフォレストーズ・スクール事業にて、北杜市立全保育園・こども園での環境教育プログラム、市民対象の環境教育講座、市内高等学校・小学校での授業協力、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター及び山梨県地球温暖化防止活動推進センター事業として、県民対象のイベント、エコエネガイド等を行った。都留環境教育マルシェ・やまなし環境教育ミーティングの実施の中核的役割を担った。

7. 専門スタッフの育成

JICA 研修員の受入れ、日本インタープリテーション協会の人材育成計画へ参画した。

公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業

～ 地域農業の活性化 ～

1. 生産農場

- (1) 標高 1,250m～1,400m の高冷地、傾斜地における安定的な生乳生産を行った。飼育頭数 100～110 頭（内訳：成牛 50 頭、育成牛 22 頭、仔牛 7 頭、雄仔牛 30 頭）、搾乳頭数は年間平均 45 頭、総生産量は年間 155,333 kg（内 3,439 kg は哺乳用）となった。
- (2) NON-GMO 且つ無農薬の安心安全にこだわった有機 JAS 牛乳への継続的な取り組みを行った。
- (3) 粗飼料の完全自給を目指し、圃場（採草地 27.8 ha、放牧地 21.4 ha）整備の推進と共に、生産性の向上、環境整備（牧柵の整備等）に尽力した。
- (4) 牧草地に計画的な堆肥や尿等の散布を行い、循環型酪農を推進した。
- (5) 山梨県畜産課、山梨県家畜保健衛生所、NOSAI 山梨家畜診療所と協力し、家畜衛生管理を徹底した。
- (6) 山梨県の補助金によって試験導入しているカウスカウト（牛群管理システム）及びエコー（超音波診断機）活用により高いレベルでの繁殖管理による乳量向上と後継牛確保を行った。
- (7) 環境負荷軽減型酪農経営支援事業助成金を活用し、酪農に起因する環境負荷軽減を図った。
- (8) 「やまなしアニマルウェルフェア認証制度」の認定牧場として動物福祉に則った飼養管理に取り組んだ。
- (9) 付加価値の高い A2 ミルクの生産を計画的に推し進めた。

2. 教育農場

- (1) 後継者の育成及び学習の場として、短期及び長期実習生、大学等の研修生を受け入れた。
- (2) 他事業との連携強化により、一般来訪者から学校団体までを対象とした日帰り型・宿泊型の牧場体験プログラムを充実させた。
- (3) ジャージー牛ファンクラブを通して施設見学や牧場体験プログラム等を多くの方々に広く提供し、「高冷地酪農」、「循環型酪農」、「ジャージー牛」、「有機 JAS 認定牛乳」、「アニマルウェルフェア」についての理解醸成を図った。

3. 食育

- (1) 「食育」の一環として、清泉寮有機 JAS ジャージー牛乳の普及及び関連乳製品の開発、普及促進を図った。今期のファンクラブによるプログラムの参加実績は 191 名。
- (2) 「循環型酪農」の一環として、雄仔牛や交雑種の肥育による牛肉生産を行い、協会内の売店やレストラン等に食材として提供した。実績 39 頭。
- (3) レストランから廃棄される食品残渣を肥育牛の飼料として活用し、食品ロスの削減に取り組んだ。今期は残渣約 300kg を飼料に転換させた。

公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を提供する事業

～ 地域のランドマークとして地域活性化に貢献 ～

1. 清泉寮

研修宿泊施設、法人の中核施設、地域のランドマークとしての役割を担い運営した。

- (1) 関係する行政機関の指導に沿った、利用者及び職員にとって安全安心、かつ消費エネルギーの削減など環境にも配慮した施設運営に努めた。
- (2) 下記利用実績の通り、教育旅行を中心に研修等の各種団体の宿泊利用受入に努めた。
- (3) 手作りとした地域の良質な旬の食材にこだわり、安全安心で美味しい食の提供を行った。
- (4) 宿泊者の付加価値を高めるため、環境教育事業部との星空等を活かした体験プログラム付の宿泊プランを提供した。
- (5) 地域を対象にした宿泊プランを販売し利用促進に努めた。また、地域の学校の謝恩会等を積極的に受け入れた。

(団体利用実績)

	2025 年度	2024 年度	2023 年度	増減(前年対比)
宿泊団体数	152 件	138 件	134 件	+14 件
宿泊団体利用者数	15,459 人	13,959 人	13,040 人	+1,500 人

2. 自然学校・キャンプ場

清泉寮自然学校（通年営業）及び清泉寮キャンプ場（夏季7月～9月営業）の2つの研修宿泊施設の運営を行った。

(1) 団体の受入れ

- ① 幼稚園・保育園から大学・各種学校まで、学校行事での大型団体を通年で受け入れ、食事・宿泊・体験プログラムの提供を行った。
- ② 各団体や主催事業の参加者から個別に派生した小規模グループの利用も積極的に受け入れ、自然学校の施設やプログラムを有効に活用してもらえる場を広げるよう努めた。

(2) 主催事業

- ① 幼児とその家族を対象とした「森のようちえん」、小学生以上のお子様とその家族を対象とした「森のかぞくキャンプ」、GW・お盆期間・年末年始の「ゆるゆるキャンプ」を継続実施。大型団体の予約がない日程で主催事業の回数を増やして実施した。
- ② リピーター参加者特典も継続し、参加者の定着につながる取り組みを行った。
- ③ 新たに、「やまもり子どもキャンプ」と「森のかぞくキャンプ」を組み合わせた「やまもりかぞくキャンプ」の実施を試みた。それぞれのキャンプの特徴をプログラムに反映させた内容で、参加者満足度の高い成果を得ることができた。

(3) プログラムの提供

- ① 環境教育事業部と連携し、敷地全体をプログラムフィールドとして豊かな自然環境を活かしたオーダーメイドの自然体験プログラムを通年で提供した。
- ② 食事について3つのポイント（仲間と分け合いそれぞれにロスのない量を食べる、できるだけ地域の食材を使う、環境に配慮した片付けの方法）を大事にし、宿泊者にも伝えるよう努めた。

(4) その他

他事業の利用を促進（売店のソフトクリーム利用や記念館見学への誘導等）、法人全体の活性化に繋がるように努めた。

(団体利用実績)

	2025 年度	2024 年度	増減
宿泊団体数	156 件	155 件	+1 件
うち自然学校	143 件	138 件	+5 件
うちキャンプ場	13 件	17 件	▲4 件
宿泊団体利用者数	8,798 人	9,353 人	▲555 人

(主催キャンプ開催実績)

	2025 年度	2024 年度	増減
企画数	6 企画/26 回	5 企画/25 回	+1 企画/+1 回
参加者数	911 人	936 人	▲25 人

3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の創設者であるポール・ラッシュ博士の来日 100 周年記念年度にちなみ業績を広く紹介する仕組みづくりを協会全体で進めると共に、法人の広報・教育機能の一端も担い活動した。

(1) 博物館業務

- ①ポール・ラッシュの業績や歴史を紹介する通常開館業務、ラッシュに関する資料のデジタルアーカイブ化作業の継続、収蔵資料や美術品の保存・管理業務、国内外でのラッシュ関連の資料の検索・発見・収集、ポール・ラッシュ邸の保存・活用、国内外からの関連資料調査依頼へ協力を行った。
- ②登録博物館の再登録申請を行った。

(2) 企画展

- ①7-3 月：昭和 100 年×ポール・ラッシュ来日 100 周年 特別記念企画展
- ②10-3 月：昭和 100 年×ポール・ラッシュ来日 100 周年 ハリウッド化粧品ミニタイアップ展

(3) 日本アメリカンフットボールの殿堂

- ①日本アメリカンフットボール協会からの寄託資料管理・展示。来館者にアメリカンフットボールに触れる機会の提供、競技の普及活動
- ②1 月 3 日に東京ドームで開催された全日本選手権「ライスボウル」へ副賞提供、授賞式参加

(4) 広報活動

県・市や対外的な機関との連携、メディアや SNS を活用した。

(5) 教育普及活動

- ①連続講座「清里らしさを考える」(14 回開催)
- ②「ロザリオづくりワークショップ」(開館日)
- ③「お守りサンキャッチャーづくりワークショップ」(開館日)
- ④「古写真を用いたフットパスツアー」(学校・企業団体に向けて開催)
- ⑤「ミュージアムツアー」(学校・企業団体に向けて開催)
- ⑥ポール・ラッシュ来日 100 周年記念 茶席 (4 回開催)

(6) 他事業との連携

- ①公益Ⅲ 清泉寮利用者の入館無料
- ②公益Ⅳ-1 (1)との協働による 2024 年度ベレア大学インターン生 1 名をボランティアとして受入れ

(7) 地域貢献

- ①地域の博物館・美術館等様々なミュージアムとの連携を継続
- ②地域の歴史文化を届けることを目的に、他事業や地域の企業と連携し、研修・勉強会を開催
- ③北杜市内の小中学生の入館無料対応
- ④北杜市内の学生のボランティア受入れ
- ⑤北杜市・ケンタッキーマディソン郡姉妹都市交流事業への協力

(8) 受託事業

- ①北杜市内小学校への特別案内
- ②日本聖公会信徒グループへの執筆
- ③日本聖公会横浜教区歴史編纂協力

④立教大学内施設への執筆

(9)教育支援

立教大学でボランティア活動を行う学生2名に、ポール・ラッシュ博士記念奨学金を給付した。

(開館日数・入館者数等の実績)

	2025 年度	2024 年度	増減
年間開館日数	296 日	307 日	▲11 日
入館者数	11,157 人	8,060 人	+3,097 人
1 日平均入館者数	37.7 人	26.2 人	+11.5 人
団体数	62 件	65 件	▲3 件
団体入館者数	2,677 人	2,414 人	+263 人

公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業

～ 「Connecting the separated」異なるものをつなぐ橋渡し～

1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じた青少年育成及び地域貢献を目指し、地域の学校や国内外の大学・NGO等の多様なコミュニティと連携しながら、事業内容の充実と発展に取り組んだ。

(1) 国内外のインターン生の受入れ

米国・ケンタッキー州から2名の受入れを予定していたが、学生側の事情により2名いずれも来日が困難となり、実施しなかった。

(2) 地域への国際理解プログラムの実施（通年）

地域の青少年育成と地域社会への貢献のため、環境教育、国際理解・英語教育等の分野で事業協力を行った。

① 地域での主催英語教育プログラムの提供

国際交流をキーワードに、地域の子どもから大人へ独自の英語教育プログラムを提供した。

② 地域の学校への協力

北杜市立甲陵高校等の地域の学校へ、文部科学省主管のスーパーサイエンスハイスクール事業等の「英語」「国際理解」のためのプログラムを実施し、青年の育成及び地域への貢献を図った。また、公益Ⅰで行う環境教育事業と連携し、さらなる教育効果の向上を図った。

(3) 国際関連団体等への協力

インターナショナルスクール、JICA等の団体を積極的に受け入れ、活動の場を提供した。

(4) 国際交流団体・公的機関との連携（通年）

山梨県国際交流協会、国際交流北杜地域連絡協議会等の諸団体との連携を図った。

～ 地域社会の健全な発展に貢献 ～

2. 地域連携事業

(1) 地域連携とポール・ラッシュ精神の発信を目的としたイベントを地域諸団体との協働で企画し開催した。

① コロナ禍以降中断していたポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～を地域の方々や関係団体との協働で6年ぶりに復活開催した。2日間で約1万人の来場者を迎え、多くの方々に復活を喜んでいただき、地域の絆を深めることにもつながった。

② 北杜国際地域連絡協議会との協働で、地域で就労している外国人労働者と雇用している企業を対象とした日本文化を体験するプログラムとして、お茶席体験、箏の演奏、ジャージー牛の革細工体験を開催した。

(2) 地域連携業務

① NPO法人清里観光振興会に理事・執行役員として関わり、組織運営に積極的に参画した。

② 八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等の地域各種団体・組織と連携し、「つつじまつりウォーク」「清里フィールドバレエ」「カントリーフェスタ」「ノースタンフェス」「清なる里のクリスマス」「寒いほどお得フェア」「北杜市観光キャンペーン」などのイベント運営に積極的に関わるとともに、歴史・文化・観光等の側面から地域連携を推進した。

③ 地域の音楽活動に発表の場を提供すると共に、活動を支援した。

④ 写真展・絵画展等の発表の場を提供すると共に、地域の芸術活動を支援した。

⑤ 地域団体と連携して美化・清掃活動を実施した。

⑥ 地元消防団、行政区、神社、警察関連機関等へ支援した。

公益 V. 幼児の育成と子育てに関する事業

～ 育児・子育て支援を通じた「地域社会の健全な発展」に貢献 ～

～ 幼児の育成 ～ 幼児の主体性を大切に・豊かな感性を育む

「一人ひとりの子どもたちを祝福する保育」を保育目標に掲げ、「森の保育園」のコンセプトのもと、地域資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動に取り組んだ。また、地域に開かれたコミュニティセンターとして、地域における教育や子育てに関わる事業に積極的に取り組み、地域社会の持続可能な発展に貢献した。

1. 地域のニーズに合わせた子育て支援

認定こども園と事業所内保育所の2園を活用し、一時預かり事業を開始するなど地域の多様なニーズに対応した。また、行政と協力して引き続き保護者のための子育て支援を行った。

2. 保育の質の向上

(1) キリスト教保育

(2) 森の保育

(3) 野外活動におけるリスクマネジメント

(4) 各部門における理解

3. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

(1) 3・4・5 歳児は模倣や助け合いを目的に育ち合う場作りを重視して2つのグループに分けて活動した。時期に応じて複数回グループを作り替え、より各自の意欲や興味に合わせた活動が展開できるようにした。0・1・2 歳児も年齢別ではなく、成長に合わせて2グループに分けての活動を行った。

(2) 一年を通して雨の日や雪の日も森に出掛け、季節の恵みを感じながらその時々に合わせての活動を行った。

4. 自然のリズムを大切に食事の推進

(1) 自然のリズムに配慮した生産者への理解や旬の食材利用を心掛け、地域の生産者からの食材を購入した。

(2) アレルギー対応や月齢に合わせた食事の提供に配慮した。また、作って食べることの楽しさや大切さを味わうことを多く経験することができた。

5. 園舎内及び周辺環境整備

(1) 園舎内及び周辺環境整備→暮らしを豊かにするための長期的ビジョンの下、職員・保護者・地域の方々とともに計画的に行った。

(2) 業者や保護者と協働しながら「森庭」の整備を重点的に進めた。

6. 研修実施・視察受け入れ等を通じた人材育成

(1) 園内研修実施と園外研修への参加を進め、保育の質の向上に努めた。

(2) 自然学校や清泉寮等と連携して各種保育団体や学校等の視察・研修等を受け入れた。

(3) 研究者との連携やフィールド提供を通して、広く幼児教育・保育に関わる人材育成に貢献した。

7. 他事業との連携

(1) 「森の楽童」の実施については環境教育事業部のレンジャーと協働して取り組んだ。自然学校とは、フィールドを共用し整備を行った。

8. 保護者や地域の方々との協働

(1) 「大屋根マルシェ」「文庫活動」「未入园児の子育て支援」等地域の子育て支援を実施した。

(2) 幼児教育の向上を目的とする活動に対して園舎を提供し、保護者や地域の方々と共に創り実践を重ねた。

(3) 地域主催の「森の楽童」は年に12回行い、フィールドの提供と人材協働を行った。

9. 卒園児のバックアップ

(1) 次世代の青少年育成支援のため、保護者主催の「卒園児キャンプ」への協力を行った。

収益 I. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等

法人が行う公益事業の経済的基盤を支えるため、様々な事業を行い収益の確保に取り組んだ。

1. 収支動向

(金額：千円)

収入部門	2025 年度	2024 年度	増減
売店	314,506	305,846	+8,660
ソフトクリーム	197,849	165,483	+32,366
飲食	87,682	80,840	+6,842
合計	600,037	552,169	+47,868

収入増加の要因としては、天候に恵まれたことと、例年に比べ冬期の降雪が少なかったことが大きい。また、清泉寮ジャージーハットにおける「清泉寮プレミアムソフトクリーム」の販売が発売以来好調を維持していることと、飲食の利用増加も上げられる。最終的に収入は前年比 108.6%という結果に終わった。

前年同様深刻な人手不足に苦慮したが、様々な業務効率化を図り対応した。

2. 重点業務

2025 年度における重点業務を以下の通り実施した。

- (1) インターネットを活用した旬な情報発信
- (2) 各種商品開発
- (3) オリジナルキャラクターの商品展開
- (4) ふるさと納税返礼品の拡充
- (5) 適正在庫の見直しと仕入の効率化による過剰在庫の削減
- (6) 店舗周辺の景観改善と環境整備及び希少植物「メコノプシス」のガーデン管理及び集客への利用
- (7) 各種職員研修

3. 通常業務

通常業務は以下の通り実施した。

- (1) 店舗運営（清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮ファームショップ・ANNE OF KIYOSATO・清泉寮新館売店）及び通信販売・インターネット販売
- (2) 清泉寮ソフトクリーム及びジャージー乳製品の出張販売（別表参照）
- (3) 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- (4) 地元産及び県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- (5) 「人と地球の健康」をキーワードとした食の安全と環境への配慮を考えたメニュー展開
- (6) 各種媒体及びメディアを活用した広報宣伝
- (7) POS システムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理
- (8) 業務の効率化によるコスト削減
- (9) 各店舗間における職員・スタッフの柔軟なシフトによる人事の効率化
- (10) 各種機械化による業務効率化

4. 出張販売
実施 7件

場所	事業名	期日
岡島百貨店	期間限定ショップ	4/2~4/7
東武百貨店 池袋店	にっぽんのグルメショー	8/26~9/2
羽村市富士見公園	はむら市民と産業のまつり	11/1~11/2
山梨県立美術館前広場	ミュゼマルシェ	12/21
京王百貨店 新宿店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/6~1/14
丸広百貨店 川越店	全国うまいものと有名駅弁の市	2/18~2/24
岡島百貨店	全国うまいもの大会	3/18~3/23

(2) 実績

(単位：千円)

	2025 年度	2024 年度	増減
出張販売件数	7 件	4 件	+3 件
ソフトクリーム売上	10,607	6,606	+4,001
物販売上	1,679	1,182	+497
合計 (税別)	12,286	7,788	+4,498

収益Ⅱ．宿泊設備を使ったホテル事業

1. 清泉寮

法人の公益事業を支える収益力の向上に取り組んだ。

- (1) リピーターに繋げることを目的とした接遇に努めた。
- (2) 客室稼働率の向上に努めた。
- (3) 予約状況に合わせて宿泊料金をコントロールする手法を継続し、料金適正化に努めた。
- (4) ホテルシステムとの連携や宿泊予約等、DX に向けたオペレーションの効率化、各種データの集積と活用を行った。
- (5) アンケートからの意見を反映・改善し、顧客から支持される施設運営に努めた。
- (6) 企画部との連携により WEB・SNS にプランや施設の紹介を配信した。また定期的にメールマガジンを配信し、新規顧客やリピーター獲得に繋がる情報発信を行った。
- (7) イベント・ミーティング・ブライダルなどの新たな形への対応。
- (8) 宿泊者専用レストランでの冬期集客を目的として、ビュッフェ、メインディッシュのグレードアップ等魅力あふれたこだわりの食事を提供した。
- (9) コテージの暖炉を活用したプラン等、清泉寮ならではの魅力を活用したプランを販売した。

(個人利用実績)

	2025 年度	2024 年度	増減
宿泊個人利用数	26,745 人	25,848 人	+897 人

本部(管理部門)

1. 総務

- (1) 定時理事会、定時評議員会の開催等、法人の運営に関わる業務を行った。
- (2) 山梨県・北杜市等の行政、観光協会、地元企業等に対し、役員・関係部署との窓口となり各種業務を行った。
- (3) 職員採用活動、勤怠管理の効率化、寮・社宅・従業員食堂等の運営改善に取り組んだ。
- (4) 職員研修を充実させ、職員の能力向上や部署間・職員間の連携強化に取り組んだ。
- (5) 業務支援 ICT ツールや情報共有ツールの導入・普及支援を行い、各部署の DX を推進した。

2. 経理

- (1) 法人の経営管理・決算業務（年次・月次）、日常の個別取引管理・処理業務、資金繰管理業務等を主に行った。

3. 施設

- (1) 水道揚水ポンプ故障およびその更新作業に関して、協会の全スタッフと共に取り組んだ。
- (2) 敷地の美観維持のため、ポール・ラッシュ通りの牧柵更新作業を行った。
- (3) 法人の施設の維持、管理、修繕に係る業務を行った。

4. 企画

(1) 広報

法人全体の情報を収集・管理し、WEB・SNSやプレスリリースなどの広報媒体により発信した。

- ① 日常的なWEB管理・更新作業に加え、ページの魅力を高めて認知度の向上を図るため、スマートフォン対応、多言語化を含め、閲覧数の増加と集客効果を狙ったWEBのリニューアルを完了させた。
- ② 職員のほか、外部スタッフも活用しながら、各施設、商品、体験プログラム、イベント、自然風景等の画像・動画撮影による素材収集を行った。有効な素材をライブラリーに集積し、それらを効果的に活用できる態勢を整えた。
- ③ 季節ごとの魅力を伝える画像・動画を作成し、WEB公開、SNS（Facebook、Instagram、X、YouTube）を活用した営業情報、自然情報、法人の求人情報などの発信を高頻度で行った。
- ④ HPのアクセスデータを定期的に収集、解析を行い、効果的な情報配信に活用した。
- ⑤ イベント、商品、サービス、プログラム、自然情報、天候・気象等様々な情報を集約し、効果的なタイミングを意識しながらのテレビ局、新聞社、行政機関・団体などに対するプレスリリースを積極的に行った。
- ⑥ 様々なメディアからの取材対応を質・量の向上を図りながら積極的に行い、有効な取材機会を増やしたことで、年間合計で57件の新聞記事掲載やテレビ放映に繋がった。

(2) プロジェクト

法人全体および地域と協働で取り組むプロジェクトに関して、事務局機能を担った。

- ① 酪農事業を支援する会員組織「清泉寮ジャージー牛ファンクラブ」の会員管理・運営業務を行った。会員数は164名（対前年▲16名）となった。
- ② 友の会組織「フレンズ・オブ・キープ」の料金規定を改正の上、会員管理・運営・広報業務を行った。会員数は227名（対前年▲46名）、会費収入は2,241千円（対前年+351千円）となった。
- ③ 昨年度作成した寄付金の新パンフレットを活用し、本年度は28件1,011千円のご寄付をいただいた。
- ④ 法人・関係先向けギフト商品のカタログ作成、集計管理業務を行った。
- ⑤ 創設者ポール・ラッシュの来日100周年を記念した通年プロジェクトを立ち上げ、新たなイベント、プログラム、商品づくりなどを行い、有効な情報発信や集客に繋がった。

5. 営業

昨年に引き続き宿泊団体は順調。教育旅行は1件当たりの人数が減少傾向。ランチ団体はフルーツ狩りが多いため天候の影響を受け減少。売店やソフトクリーム利用のバスツアーは増加。ブライダルは前年度から情報サイトに掲載した結果増加した。

- (1) 団体毎チャンネル別の集客情報を生かし営業活動の絞り込みが出来てきた。
- (2) 団体を扱う旅行 AGT に集中的に営業活動を行った結果、教育旅行の利用が増加した。
- (3) 一般団体は、昨年同様に横ばいである。
- (4) ランチ団体は減少予算であった為、その通りに推移した。
- (5) 売店・ソフトクリーム利用のバスツアーは、昨年の減少を受けて集中的に旅行 AGT やバス会社に営業活動を行った結果増加し始めた。
- (6) 各種パーティー（忘年会・新年会・謝恩会・ブライダル）は、謝恩会とブライダルを除き利用は無かった。謝恩会は3校実施、ブライダルは情報サイトに掲載の結果が顕著に現れ例年並みに回復した。

(利用実績)

	2025 年度	2024 年度	増減
一般団体(宿泊)	154 件／7,564 名	166 件／8,075 名	▲12 件／▲511 名
教育旅行(宿泊)	142 件／16,251 名	123 件／15,526 名	+19 件／+725 名
ランチ団体	164 件／4,573 名	213 件／6,527 名	▲49 件／▲1,954 名
バスツアー	556 件／34,169 名	525 件／30,484 名	+31 件／+3,685 名
謝恩会	3 件／221 名	3 件／204 名	±0 件／+17 名
ブライダル	9 件／518 名	4 件／168 名	+5 件／+350 名